

2025年度 自己評価報告書

学校法人釧路キリスト教学園
幼稚園型認定こども園湖畔幼稚園

本園の教育目的

《神さまの愛と恵みのもとに生かされている喜びを分かち合う。》

神さまが愛をもって造られた世界は、恵みに満ちています。特に神さまのかたちに造られた私たちには神さまの限りない愛が注がれています。その神さまの愛と恵みに出会い、感動と喜びを体験し、自分自身がかげがえのない人間として生かされていることを知る時、他の人もまた同じように尊い命に生きていることに気づくのです。互いにその喜びを分かち合い、共に生きることを具体的に体験していきます。

園生活を通して、神さまの愛のもとで保育者や友だちと喜びを共にし、自分を愛し、他の人を愛し、自然を大切にする、調和のとれた人間性の教育を目的とします。

本園の教育目標

- ・子どもが、自分自身が大切な存在として受け入れられていることを感じとり、自分自身を喜びと感謝をもって受け入れることができるようになる。
- ・子どもが、イエスさまを身近な存在として知ることを通して、見えない神さまの恵みと導きへの信頼感を与えられ、イエスさまと共に、日々を歩もうとする思いを与えられる。
- ・子どもが、自分と他の人との違いを認めると共に、違いを認めつつ一緒に生活するための努力ができるようになる。
- ・子どもが、こころを動かし、探求し、判断し、想像力をもち、創造的に様々な事柄に関わるようになる。
- ・子どもが、私たちの生きる自然や世界を神さまの恵みとして受けとめ、自然や世界の事柄に関心を持ち、自分たちのできることを考え、行うようになる。
- ・子どもが、してはいけないことをしようとする思いが自分の中にあることに気づき、そのような思いに抵抗することができるようになる。

今年度重点的に取り組む内容

年主題『ともに』

2025年度年主題聖句 「わたしはあなたと共にいる。」

イザヤ書43章5節

1. 年間テーマ『ともに』に基づき、大人も子どもも、ともに神さまの恵みと平安の中で、「安心」した園生活を送ることに努める。特に礼拝を大切にし、週のはじめに行われている合同礼拝で聴く聖書のお話を、クラス礼拝においてもできるだけ取り入れ、子どもたちが自分なりの言葉で祈る機会を増やし、神さまとの対話を深めて、より丁寧な礼拝を目指す。
2. 環境教育の中で取り組まれてきた木育活動を、昨年に引き続き行い、釧路の木や身の回りの木についての理解を深めながら過ごす。園庭での植樹活動や草花の栽培活動を通じて、自分たちの園庭が遊び場としてより豊かになるように水やりをしたり、雑草を取ったりして活動し、環境への興味関心が深まるように配慮する。
3. 子どもが遊びの中でさまざまな経験を通して育つことを重点的に捉え、普段の遊びの環境を整える。年齢や発達段階、興味や関心に沿った環境を整え、子どもたちが友だち同士で話し合ったり、考え合ったりして互いに関わり合いながら十分に遊びこめるように工夫する。また、日々の遊びの中で教師が子どもたちと十分に関わりあって遊び、子どもたちの思いや考えに共感しながら一緒に活動することを大切にしつつ、子どもたちの育ちを支える。
4. さまざまな危機を想定した毎月の避難訓練で、子どもたちの防災、防犯意識を高める。また、訓練の際の計画・実行・振り返りの流れを整えることで、危機管理マニュアルにも基づいた計画や見直しが行われていくように改善していく。訓練内容も形式的にならないように、命を守る行動としてより現実感のある訓練を行っていく。また、子どもたちのトラブルや怪我の状況をできるだけ把握するように、教師間同士の連携を深め、報告・相談の上で、保護者に対しても丁寧に伝えるように努める。
5. 年間テーマ『ともに』を意識して生活し、人との関わりを深め、他者とともに活動することで豊かな人間関係を築く。園内の異年齢の関わりにおいては、日々の自由あそびや「みんなの日」の活動、一緒に給食などで無理なく関わりを深めることができるようにする。また、地域との交流にも積極的に出かけさまざまな人との交流に努める。園と小学校の連携においては、年長児の小学校一日体験入学だけでなく、合同避難訓練や学習発表会の見学などを行うなどして、より関係性を深めていく。
6. 保護者一人ひとりとの信頼関係を築くように心掛け、各家庭への丁寧な対応を行う。緊急お知らせメールやおたよりの配信について、スマートフォンアプリの導入によって配信しやすい形で保護者も見やすいものへと整える。また、登降園システムへの打刻や請求書の配信などの機能を利用し、円滑な連絡ツールとして利用を広げる。
7. 正職員のみならず保育にあたるもの全員が子どもたちの前においては同じ教師である。その上で正職員、臨時職員の別なく子どもへの理解を深め、子どもの人権を尊重した保育を行う教師力を高める。そのための研修への参加を励行し、学びを積み重ねていく。

教職員による評価項目に対する自己評価

※（ ）内は前年度数値

評価項目	取り組み状況	評価
<p>I. 保育の計画性</p>	<p>1. 今年の年間テーマ『ともに』のもと、『わたしはあなたがたと共にいる。』との年主題聖句の御言葉に励まされながら歩んだ1年間であった。各保育者が神さまに愛されていることを実感し、大人も子どもも互いにそれぞれの個性を認め合い、神さまの愛の中で『ともに』安心して園生活を送ることを大切にして過ごした。</p> <p>2. 園生活の中で、いつでもどこでも『ともに』おられる神さまを覚え、礼拝の時には心を落ち着かせて臨むように心掛けた。また、合同礼拝だけではなく、クラス礼拝においても聖書のお話を絵本や紙芝居などを用いて分かりやすく伝えるようにし、祈るときには自分の言葉で祈ることで神さまとの対話を深めるようにして、より豊かな礼拝に努めた。</p> <p>3. 自分たちの遊び場としての豊かな園庭を目指すとともに、また、環境教育の一環としても木育活動や栽培活動をすすめることができた。釧路振興局の方々との植樹活動や造園業者の方とのチューリップの植え付けを、『ともに』行うことができ、良い交流の場となった。また、園庭に築山、砂場を整備し、遊びやすくなったことで、園庭での遊びを喜ぶ子どもたちの姿が見られている。子どもたちの主体的・意欲的な遊びのため環境が整い、高評価にもつながった。</p>	<p>3.6 (3.3)</p>
<p>II. 保育の在り方・幼児への対応</p>	<p>1. 「命」を守る貴重な学びとして、年度初めの入園式後、教職員全体で防犯講習を受け、園における安心安全の保育体制を確認し合い、緊急時にも対応できる学びを行って1年間をスタートすることができた。毎月の避難訓練においても、その大切さを再確認しながら、計画と実行及びその振り返りを行って、訓練を積み重ねることで、危機管理の意識を深めることができた。特に、7月30日に発生したカムチャツカ半島付近の地震による津波警報発令により、約70名の子どもたちと教職員11名が湖畔小学校へ避難したことを受け、緊急時の対応について様々な観点からの検証を行い、非常時を想定した備えを固くすることができた。また、各保育室に温度計・湿度計機能付きの時計を設置したことで、熱中症などへの対処も踏まえ、適正な生活環境を視覚的にチェックできるように配慮した。</p> <p>2. 子どもたち一人ひとりのありのままの姿を教職員が受け止め、子どもたちとともに考えたり工夫したりして、互いに助け合い、励まし合いながら生活するように努めた。子どもたちの主体性を大切にした活動を心掛け、クラスの枠を超えて、各教職員が連携し合い「ともに」子どもたちの生活を支えて過ごすことができた。</p> <p>3. 子どもたちのトラブルや怪我の際、その状況をできるだけ正確に把握し、報告・連絡・相談の上で、教職員間の連携で対処するように努めた。</p>	<p>3.8 (3.7)</p>
<p>III. 保育者としての資質・能</p>	<p>1. 子どもの気持ちを受け止め、一人ひとりの人格を尊重して共感的に関わるように努め、個々の育ちの違いにも配慮しながら、その場の状況に応じた適切な援助ができるように教職員全体で補い合った。互いに連携を密に取り合い、協力し合いながらチームとしての関係性を深めるように努めた。</p>	<p>3.8 (3.8)</p>

<p>IV. 保護者への対応</p>	<p>1. おたよりやブログ、玄関の掲示、連絡ノート、お迎え時などで子どもたちの様子をできるだけ保護者の方に伝えるように努めた。保護者からの相談や質問などには丁寧な対応を心掛け、園での子どもの様子なども伝わるようにし、相互の信頼関係が深まるように努めることができた。日頃玄関に掲示していたドキュメンテーションは、保育参観時には、階段・廊下に掲示し、普段見ることのない保護者にも見ていただき普段の保育の見える化を心掛けた。</p> <p>2. スマートフォンアプリ「おがスマ」の導入により、園からのお知らせ配信がスムーズにできるようになり、その配信を保護者が確認できているかどうかの情報も見ることが可能となった。そのため、情報に気づいていない保護者に声をかけるなどして、細やかな対応が可能となった。また、行事日より請求書の確認、玄関先での打刻がスムーズになり、そのことでペーパーレス化もすすめることができた。</p>	<p>3.8 (3.8)</p>
<p>V. 地域の自然や社会との関わり</p>	<p>1. 年間テーマ『ともに』を意識して生活し、人との関わりを深めつつ過ごすことができた。特に、園庭整備における地域の方々との活動で交流が深められ、豊かな触れあいの場となった。ユネスコスクールとして山花小中学校との交流、卒園記念品製作における鶴野支援学校との交流など年長児を中心とした地域交流の輪が広がった。また、普段は午前中の保育について関わることの少ない事務職員、午後の教職員や運転手、退職した職員、行事の当日を欠席した子の保護者を招いて、子どもたちの取り組んでいる姿を見てもらい、その成長をともに喜び合う時をもつことができた。</p> <p>2. 釧路市がすすめる架け橋プログラムにおいて「年長から小学校1年のカリキュラムに関する協定書」及び「架け橋期のプログラム」を園と湖畔小学校で取り交わした。相互の連携においては、新たに津波を想定した合同避難訓練が行われたり、運動会や学習発表会の練習を見学させていただいたり、就学児の引継ぎを丁寧に行ったりなどして、互いの関係性を深めることができた。</p> <p>3. 未就園児とその保護者が訪れている園開放日（ウェルカムデー）には、大人も子どももお迎えする気持ちを持ち、来園者が気持ちよく過ごすことが出来るように配慮している。園が地域における子育て支援の拠点として利用されるような場所として整えていく。</p>	<p>3.5 (3.3)</p>
<p>VI. 研修と研究</p>	<p>1. キリスト教保育連盟道東地区研修会の担当園として、会場を自園とし、100人以上の豊かな学びの場とすることができた。また、教職員がそれぞれに、オンデマンド形式やオンライン形式の研修を自分のペースで受け、自分の課題と向き合い、自らの保育を振り返る良き学びの時をもっている。個々に受けた学びについて報告し、教職員全体で共有することで、質の向上となっている。</p>	<p>3.6 (3.5)</p>